

## 愛媛大学及び愛媛県果樹試験場における果樹栽培

下敷領耕一・川口昭二・谷村音樹

研修地 愛媛大学農学部附属農場  
愛媛県北条市八反地甲498  
愛媛県果樹試験場  
愛媛県松山市下伊台1618

日 程 1995年2月22～23日

### 愛媛大学農学部附属農場

愛媛大学農学部附属農場は、総合農場である。果樹は主に柑橘類が多くキウイフルーツやブドウなどの栽培も行っていた。他に水稻、観葉植物、メロンなどを栽培しており、ネットメロンは水耕栽培が行われていた。畜産は和牛が主で、農場内の丘で放牧が行われていた。

農場職員は、組織化されており、技術長が中心となって農場に必要な予算の算定、請求なども技官が行っていた。技術長は、担当業務が決まっておらず農場全体の総括責任者的存在であった。

### 愛媛県果樹試験場

愛媛県果樹試験場は、総面積25.4ha（内圃場面積13.64ha）である。栽培育種室と生産環境室との2つの部門がある。

栽培育種室は、柑橘育種班、柑橘栽培班及び落葉果樹班の3班に分かれている。柑橘育種班は交雑育種により柑橘の新品種の育成を進め、導入品種の選抜や新系統の適応性検定などを行っており、キメラ作出法による品種改良やバイオ技術の利用による晩柑類の無核化などに取り組んでいる。柑橘栽培班は柑橘の生産コストの低減を図り、高品質果実を安定生産するための栽培技術の改善や新技術の開発、特に傾斜地柑橘園の園内作業道整備等による軽労働・省力化技術の試験研究を行っている。落葉果樹班はブドウ・梨・桃・柿・キウイフルーツなどについて、品種の育成選抜、台木や結実管理による高品質安定生産技術、施設栽培などの試験研究を行っている。

生産環境室は、土壤肥料班、病害班及び虫害班と3班に分かれている。土壤肥料班は果樹の安定生産や品質向上のため土壤改良と施肥改善の試験研究を行い、特に伊予柑の施肥と水管理、環境保全に配慮した技術対策、また早生温州のハウス施設栽培技術の改善について試験研究を進めている。病害班果樹の主要な病害の発生生態を解明し、合理的な防除体系を確立するための研究を行い、特に柑橘のウイルス病防止対策に重点をおいて試験研究を進めている。虫害班は果樹の主要な害虫の発生生態を解明し、効率的な防除体系を確立するための試験研究を行い、特に天敵や糸状菌、フェロモンなどを利用した生物防除法について研究を進めている。

果樹試験場は技術的側面から果樹農業の一層の発展、産地の振興に役立てるため、新品種の育成、高品質果実や省力・多収の栽培技術、効率的な病虫害防除技術、気象災害防止技術、施設栽培技術など多岐にわたって試験研究を推進しているとのことであった。

### 感 想

鹿児島大学農学部附属農場は、技官の組織図は出来ているが、実際の組織が機能していない。鹿大附属農場は、4施設に別れる分散型をとっているため、完全な組織化はなかなか難しいのではないかと、愛媛大附属農場を見学し実感した。

果樹試験場では、果樹栽培についていろいろ勉強になり、今後本研修で学んだことを各施設で役立てたいと思う。